

第10節 関連団体

1 社団法人大牟田市シルバー人材センター

(1) シルバー人材センターの概要

<設 立>

法人格	社団法人
設立許可	昭和61年4月1日許可 昭和61年2月25日任意団体設立

<目 的>

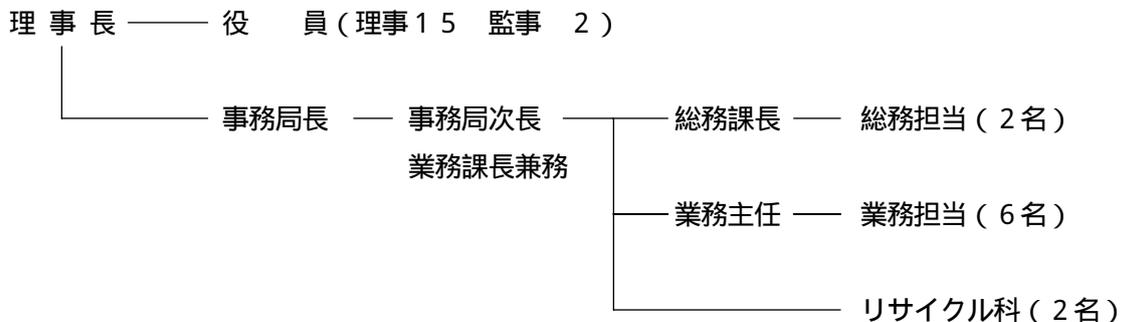
働く意欲と能力をもった高齢者（60歳以上）に、生きがいつくりの場として臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、組織的に提供することによって、高齢者の能力の積極的な活用を図り、もってその福祉の増進に資するとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

<事業内容>

- 高齢者の就業に関する情報の収集及び提供
- 高齢者の就業に関する調査研究
- 高齢者の就業に関する相談
- 臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものを除く）を希望する高齢者に対するこれらの就業機会の確保と組織的な提供
- 臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものに限る）を希望する高齢者のための無料職業紹介事業及び一般労働者派遣事業
- 高齢者に対する臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施
- その他高齢者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に関し必要な業務及びセンターの目的を達成するために必要な事業の実施

<機 構>

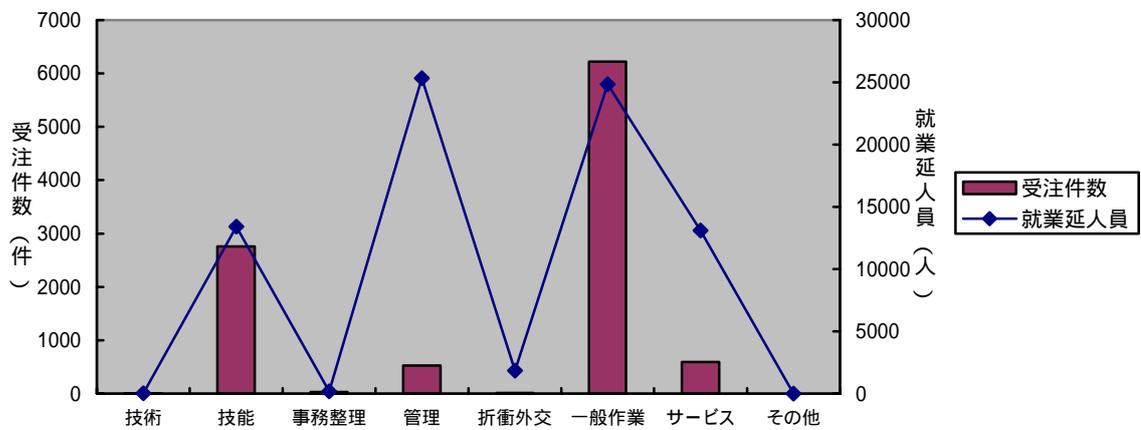
（平成23年4月1日現在）



(2) 平成22年度事業実績及び会員数

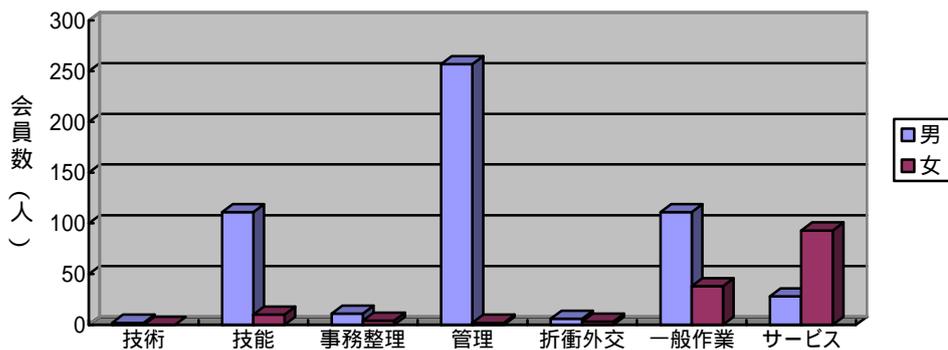
事業実績（職種別）

区分	受案件数	就業延人数	事業収入	構成比
技術	4	19	69,242	0.0%
技能	2,757	13,409	63,878,318	24.9%
事務整理	31	187	232,931	0.1%
管理	524	25,332	82,555,142	32.1%
折衝外交	10	1,856	1,346,430	0.5%
一般作業	6,225	24,855	75,135,768	29.2%
サービス	595	13,110	33,770,638	13.2%
その他	0	0	0	0.0%
合計	10,146	78,768	256,988,469	100%



会員数（希望職種別）

希望職種	男	女	計	構成比
技術	2	0	2	0.3%
技能	111	10	121	17.9%
事務整理	11	4	15	2.2%
管理	257	2	259	38.3%
折衝外交	6	3	9	1.3%
一般作業	111	38	149	22.1%
サービス	28	93	121	17.9%
計	526	150	676	100.0%



1) 事業実績

市民・関係機関の暖かいご支援ご協力をいただきながら、事業を実施したが、厳しい経済状況が続いており、事業実績は、前年度より減少（前年度比 - 4.7%減）した。

2) 自主運営体制の強化

(1) 会員の自主的な事業展開を図るため、職群班長会議等を頻繁に開催し、活性化に努めた。

(2) 理事会のもとに6専門委員会を設置し、それぞれの所掌事務について活発な意見交換がなされた。

総務委員会・・・理事の推薦について、自薦・他薦制度を取り入れるための意見交換がなされ、23年度の理事改選時より適用することとした。

業務委員会・・・受注方法について請負制度に移行することとし、22年度先行実施の除草については、体制の見直しを検討し、他職種については、制度移行に対する検討を行った。

適正就業委員会・・・就業中の賠償事故と会員の責任、市民・発注者からの苦情等について対応策等の意見交換を行った。

安全・衛生委員会・・・安全・衛生基本計画・安全就業対策推進計画を策定し、これに基づいた安全パトロールを実施した。

女性委員会・・・女性会員の就業機会の拡大のため、福祉家事援助事業・子育て支援事業の拡大について意見交換がなされ、掃除の仕方・託児ルームの知恵袋教室等の研修会を実施した。

広報委員会・・・会報ふれあいの編集・普及啓発用リーフレットについて意見交換を行った。

3) 安全・衛生、適正就業の強化

安全・衛生委員会において就業中、途上に関する事故防止と安全確保、健康管理についての対策等を検討。

就業現場への巡回指導を実施。特に、事故が発生した時点で、事故現場での検証を実施すると共に広く会員へ周知することで安全対策に対する意識の高揚と事故防止に努めた。

就業に対するクレームや事故に対しては、適正就業委員会と安全・衛生委員会との合同会議を実施し、意見交換及び対応策等の協議を行った。

4) 各種講習会・研修会の取組み

交通安全への意識向上と運転技術の確認のため、地元警察と自動車学校の協力により、運転安全講習を実施した。

就業で、草刈機を取り扱う会員に対して、刈払機取扱を実施し、操作方法や安全就業について再確認を行った。

女性会員対象に、子育て研修や掃除の仕方等の研修を行った。

職員を対象に接遇研修、コミュニケーション研修等を行った。

5) 会員の加入促進

入会説明会の回数を増やし、60歳代の入会促進に努めた。

6) 就業機会の拡大

厳しい経済状況が続く中、就業機会の拡大のため、受託事業の他に一般労働者派遣事業の認可を受け、企業等への就業開拓に努めた。

7) 新公益社団法人への移行

平成23年度中に「公益社団法人」へ移行申請することを目指し、準備を進めてきた。平成23年度総会にて、法人法に示された定款等の諸規程の変更について審議していただく予定。

8) 奉仕活動と普及啓発活動

地域への感謝の気持ちを込め、公共施設等の剪定奉仕活動を実施。市内で開催されるイベントへの清掃奉仕活動にも積極的に取り組んだ。

普及啓発では、市長を表敬訪問し、シルバー事業への支援をお願いした。また地元新聞社と通じて広報啓発記事を掲載し、PR活動を行った。

9) 独自事業の推進

独自事業であるリサイクル事業については、不用品の再生・販売を中心に取り組んでいるが、再生(リサイクル)だけにこだわらず、改良(リフォーム)や修理等(リペア)等、新たな事業内容を検討していく。また、学校給食等から排出された廃食用油を原料にした石けん製造も行っており、新しい石けんの商品化を検討し、販売を開始した。さらなる新商品の開発等に努力する。

10) 職業訓練委託

福岡県立大牟田技術訓練校より、就職支援能力開発訓練教程リサイクル科の委託を受け、職業訓練を実施している。

11) 就労開発モデル事業

高齢者の職業の安定その他福祉の増進を図るとともに、経済及び社会の発展に寄与することを目的として、地域における高齢者の就業拡大等、高齢者就労のモデル的取り組みを支援する事業として実施した。アンケート調査を実施し、高齢者が有する能力の発掘等、整理を行った。また、モデル事業検討委員会を設置し、事業実施にあたり、必要な事項の検討を行った。

地域ネットワークづくりの拡大、地域と資源を活かした地域ビジネスの発展を目的とした講演会が実施した。

休耕地活用として、モデル事業として、農業指導者の育成等、検討、準備を行った。

12) 企画提案事業

平成21年度から実施している大牟田市生活管理指導員派遣事業について、事業名「やすらぎサポート 大牟田シルバー」として企画提案方式事業に採択され、自立を必要とする高齢者に対して、会員が培ってきた経験を活かした指導・助言等のサービスを行っている。

2 社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

根拠法令等	社会福祉法（第109条）	所管課	保健福祉総務課 地域福祉推進室
-------	--------------	-----	--------------------

(1) 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置付けられ、住民の社会福祉に対する関心と理解を深め、地域における社会福祉の増進に努めるという理念のもとに、全国の都道府縣市町村に設立されている。民間組織としての「自主性」と住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という2つの側面をあわせ持った組織で、地域住民による福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施等を行い、地域福祉活動の中心的な役割を担っている。

平成12年に社会福祉事業法が大幅に改正され社会福祉法となり、その第109条では、社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と明記された。

大牟田市社会福祉協議会は、昭和26年に任意団体として発足し、昭和47年に社会福祉法人の認可を受け、以来、大牟田市の地域福祉の推進役として住民のニーズにあった様々な事業活動を展開している。

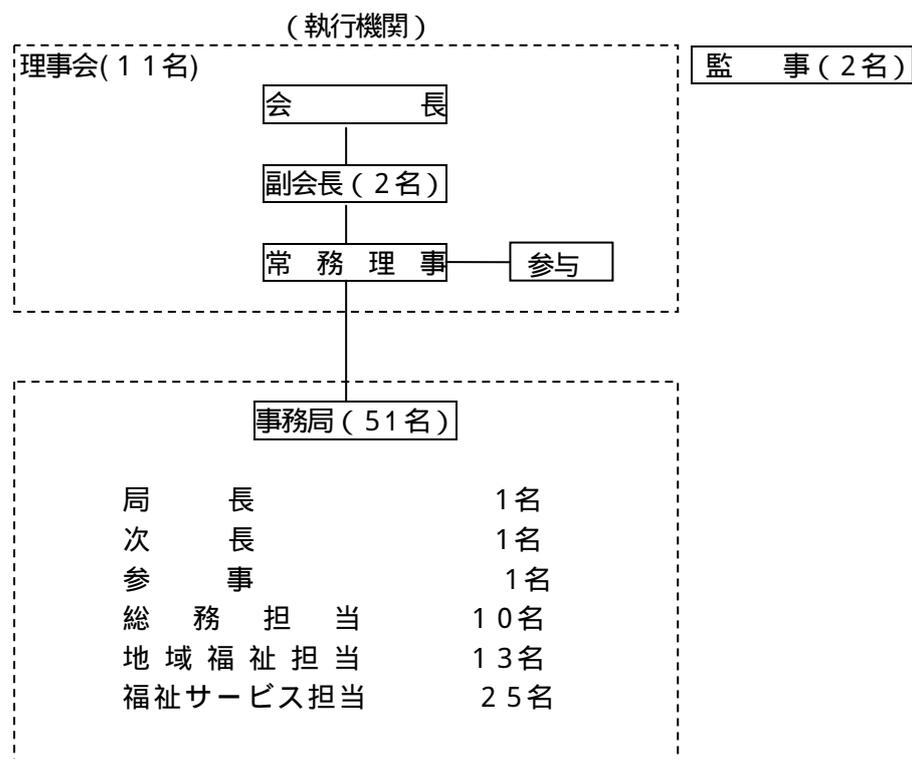
現在は、「地域福祉推進と絆」をキーワードに、地域における様々な生活上の諸問題を地域全体の課題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決を図る心ふれあう「誰もが安心して暮すことができるまちづくり」を目指し、校区社会福祉協議会とともに、見守り・相談・援助活動やボランティア派遣など様々な地域福祉活動に取り組んでいる。

(2) 社会福祉協議会の機構と組織構成

（平成23年7月1日現在）

評議員会（23名） （議決機関）

区分	所 属 名	評議員	理 事
1	校区社会福祉協議会代表	6名	1名
2	民生委員・児童委員代表	2	1
3	町内公民館連絡協議会代表	1	1
4	社会福祉事業施設代表	2	1
5	福祉団体代表	3	1
6	ボランティア団体代表	1	1
7	N P O 法人代表	1	0
8	社会福祉関係公務員代表	1	1
9	市議会代表	1	1
10	学識経 験 者	5	3
合 計		23名	11名



(3) 社会福祉協議会の実施事業

平成22年度は、第2次大牟田市地域福祉実践計画（以下「第2次計画」という。）（平成22年度～平成26年度）の初年度であり、第2次計画の“絆”を中心とした3本の活動指針に沿って様々な事業に取り組みました。加えて、社協基盤強化の取組みとして、理事業務担当制を設け、これからの本会運営を役員職員一体となって実践できる体制づくりに努めたところです。

平成22年度事業においては、第2次計画の3本の活動指針に沿って報告いたします。

活動指針1 「つながり、支えあいのある“あたたかい地域”を実現します！」

福祉委員の改選に際し、福祉委員研修会を開催するとともに、福祉懇談会や出前講座等を実施し、「見守り・訪問活動」を組織的に行う小地域ネットワーク活動の推進強化に努めるとともに、校区社協会長連絡協議会（以下「校区社協会長会」という。）の組織強化・活動の支援に取り組みました。

高齢者等の憩いの場、介護予防の場、子育て支援の場としてサロン事業を広げることができました。

また、市受託事業として、子育て名人発掘事業や学童保育所運営事業・ファミリーサポートセンター運営事業に取り組み、特に、学童保育所運営事業では、新たに平原学童クラブを開所、三池・高取・中友・白川・大牟田の6カ所の学童保育所・クラブで、世代間交流・地域交流など、地域に根ざした保育事業に努めました。

活動指針2 「小さな声にも応える福祉サービスを提供し、普及に努めます！」

平成21年度に実施した「生活介護・支援サポーター養成講座（恋するようにボランティアを...）」の修了者を対象に、生活介護支援員（サポーター）の登録を行い、平成22年度に住民参加型福祉サービス“おおむたキャロットサービス”を開設し、生活・福祉課題を抱えている単身高齢者等を対象にサポーターを派遣し、生活支援サービスを実施しました。

高齢者等福祉対策については、高齢者、障がい（児）者に対する介護保険事業・障害者自立支援事業をはじめ、児童・母子に対する諸事業の支援や住民の悩みなどを解決に導く総合相談事業、低所得者等に対する貸付事業（県社協受託事業）に取り組みました。

また、広報については、機関紙「きらり」の発行をはじめ、社協ホームページの充実、そして新たに、事務局通信「きらり」を月1回発行するなど、情報提供の充実に努めました。

活動指針3 「誰もがまちづくりに参加できる活動をすすめます！」

ボランティアセンターの充実強化については、コーディネート機能の強化に努め、様々な団体等と情報交換を行い、新たな発想で「ボランティアセンターのあり方」について検討協議したところです。

また、手話をはじめとする各種技能養成講座、生活・介護支援サポーター養成講座、障害福祉総合ボランティア養成講座、成年後見活用講座などの各種養成講座や第1回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバル、第2回大牟田市地域福祉大会、大牟田市認知症ケアコミュニティ推進事業、東日本大震災義援金街頭募金など、多職種協働で様々な事業に取り組みました。

(4) 校区社協活動への支援

校区社協会長連絡協議会の充実

これまでの校区社協会長の運営体制について、より自主的で、迅速な運営を目指すために、校区社協会長の役員定数の見直し（7名から10名）と新たに2部会（研修部会・広報部会）の立上げなど組織機能の強化が図られた。本会では、校区社協会長会で様々な情報収集・提供に取り組むとともに、地域福祉の推進が地域リーダー力によるものが大きいことから協働で研修等を実施することとした。また、校区担当制を設け、社協職員が校区の初期窓口となり、市社協と校区社協の橋渡し役として活動した。

校区社協会長研修会の開催

校区社協会長が大牟田市の地域福祉の現状等を捉え、各々の校区社協で連携を深めることにより自校区での地域福祉活動の向上を図ることを目的に校区社協会長研修会を開催し、各校区間での情報交流・親睦を図った。

（第1回校区社協会長研修会）

【開催日】平成22年11月9日（火）

【場 所】総合福祉センター 大会議室

【内 容】ふれあい活動推進員について

校区自治組織の形成について

（第2回校区社協会長研修会）

【開催日】平成23年3月28日（月）

【場 所】総合福祉センター 大会議室

【内 容】地域コミュニティづくりにおける校区社協のあり方について

講師：日本福祉大学 社会学部 教授 平野 隆之 氏

校区社協・校区民児協・校区連協合同研修会の開催

地域リーダーである各校区社協・民児協・連協の会長が、地域福祉活動の推進方法等を研修・研鑽することを目的に「これからの地域福祉のあり方」をテーマとした合同研修会を開催した。

【開催日】平成22年9月16日（木）

【場 所】総合福祉センター 大会議室

【内 容】これからの地域福祉のあり方

講師：熊本学園大学 社会福祉学部 教授 和田 要 氏

【参加者】69名

(5) 小地域ネットワーク活動の充実

福祉委員制度によるネットワーク活動強化

本会では地域における小地域ネットワーク活動を活性化していくために、平成18年度に福祉委員制度を発足した。きめ細かな地域福祉サービスや情報が校区全域に伝わるよう、各校区の世帯に応じ、概ね100～150世帯に1人の割合で福祉委員が見守り・訪問・支援活動を行っている。平成22年度は、福祉委員の改選期で、369名が福祉委員として委嘱された。

平成22年7月から9月にかけて大牟田市内を8ブロックに分けて、「福祉委員の役割」について福祉委員研修会を開催したほか、新校区社協ハンドブックを活用し、小地域ネットワーク活動での福祉委員や民生委員・児童委員との連携や意見交換等の福祉座談会を下記のとおり実施した。

（福祉委員研修会の実施状況）

回数	開催日	対象校区	場 所	参加者数
1	7月21日（水）	天道・笹原・玉川校区	勝立地区公民館	30名
2	7月23日（金）	駛馬南・駛馬北校区	駛馬地区公民館	26名
3	7月27日（火）	上官・大牟田・大正・中友校区	中央地区公民館	58名
4	7月28日（水）	みなと・天領校区	三川地区公民館	31名
5	7月30日（金）	白川・平原・高取校区	総合福祉センター	39名
6	8月 3日（火）	三池・羽山台校区	三池地区公民館	48名
7	8月 4日（水）	明治・手鎌校区	手鎌地区公民館	30名
8	8月 6日（金）	銀水・吉野・上内校区	吉野地区公民館	29名
予備日	8月31日（火）	全校区対象	総合福祉センター	47名

予備日	9月18日(土)	全校区対象	総合福祉センター	7名
合 計				345名

(福祉座談会の実施状況)

開催日	校 区	開催日	校 区
7月3日 土	手 鎌校区	11月18日 木	羽山台校区
7月14日(水)	三 池校区	11月20日 土	笹 原校区
8月23日(月)	みなと校区	11月25日 木	駿馬北校区
8月24日(火)	平 原校区	12月5日(日)	吉 野校区
9月17日(金)	銀 水校区	12月8日(水)	駿馬南校区
9月18日(土)	倉 永校区	12月10日 金	大牟田校区
10月1日(金)	高 取校区	12月18日 土	上 官校区
10月27日 水	白 川校区	12月20日 月	明 治校区
10月30日 土	玉 川校区	12月21日 火	中 友校区
11月1日(月)	天 領校区	12月22日 水	大 正校区
11月12日 金	天 道校区		

おおむたキャロットサービス(住民参加型福祉サービス)

生活・介護支援サポーター養成講座修了者を対象に、サポーター登録を行い、生活課題を抱えている一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がいがある人などに、制度の狭間などで公的な福祉サービスでは対応できない生活支援サービス(おおむたキャロットサービス)を平成22年7月より開始した。

(おおむたキャロットサービス会員数)

利用会員
65名
協力会員(サポーター)
23名

(おおむたキャロットサービス活動内容及び活動状況)

活 動 内 容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計 (件)
掃除・洗濯(家事支援)	1	14	22	15	14	10	10	17	13	116
買い物				1					3	4
外出援助								2	1	3
薬とり	2	2	3	2	2	2	1		2	16
身体介護・見守り										0
食事づくり	2						1			3
ゴミ出し										0
草取り	1	10	3	2	4	2		2	2	26
病院受診付添		1	6	5	7	5	5	5	8	42
家屋の修繕・その他					1		1	1	1	4
その他	1	1	2				6		2	12
合 計	7	28	36	25	28	19	24	27	32	226

多職種・多分野協働のまちづくり

平成22年度は、福祉団体・行政等と多職種協働で様々な事業を実施した。

【多職種・多分野協働の主な事業】

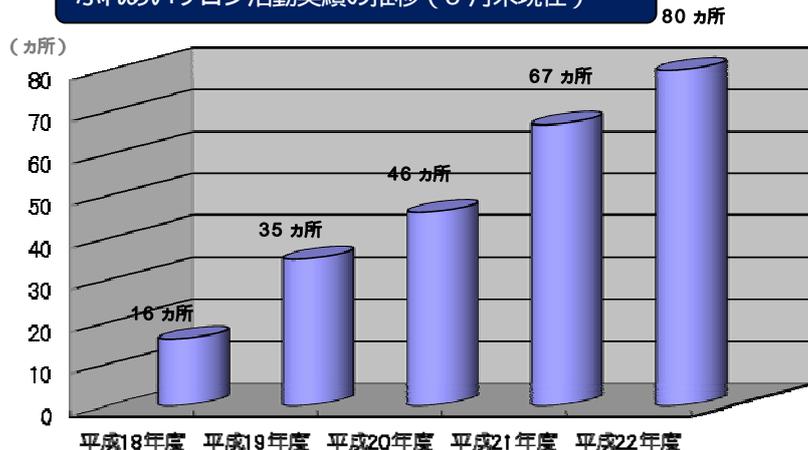
第7回徘徊SOSネットワーク模擬訓練
第32回パラリンピック&サンアビまつり
共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&
社協“絆”フェスティバル
ふるさと福祉職場合同説明会
障害総合福祉ボランティア養成講座
成年後見活用講座
商店街いきいきふれ愛あきない祭
認知症絵本教室
知的障がい児・者医療ニーズ調査プロジェクト
認知症高齢者徘徊搜索活動
東日本大震災復興支援プロジェクトおおむた
他

(6) ふれあいサロン活動の拡大

ふれあいサロン事業の推進

地域に住む高齢者や子育て中の人達や障がいを持った人達が地域で楽しくすごす憩いの場、集いの場として重要視されている“ふれあいサロン活動”を市内全域に拡大した。また、既存の高齢者サロンに子育て中の人達を巻き込んだサロンを3箇所開設した。3月末現在で80カ所がサロンとして登録している。

ふれあいサロン活動実績の推移（3月末現在）



サロン事業の情報提供

登録されているすべてのサロン活動者に呼びかけて、年2回サロン連絡会を開催し、サロン活動のメニュー紹介やサロン活動の実践発表を行うなど、情報交流を図った。

(7) 子育て支援の充実

子育てサロン・子育て名人発掘事業（市受託事業）

子育てサロン・子育て名人発掘事業は、子育て世代の居場所を増やすことと、子育て経験者が持つ暮らしや子育ての知恵を若い世代に伝える機会をつくることを目的としている。

年4回の「子育てきらりフェスタ」や毎週水曜日の「子育てサロン・マザーリーフ」を実施したことにより、地域の子育て支援者“お世話焼きさん”を発掘・登録し、子育て中の親の相談や支援に繋がった。

【子育てサロン開設数】 8カ所

【子育て名人登録者数】 18名

(子育てサロン・子育て名人発掘事業活動内容及び活動状況)

開催日	事業内容	参加人数	開催場所	備考
4月 7日	子育てサロン「マザーリーフ」開設	11人	総合福祉センター	毎週水曜日開催
5月11日	子育てきらりフェスタ vol.3 開催	245人	総合福祉センター	
6月26日	上官折り紙サロン開設	16人	いこい	月1回開催
6月30日	お買いものついでに子育て講座	52人	和光ショッピングセンター	
9月 8日	子育てサロン「バンビ」開設	36人	道の駅・花ぷらす館	月2回開催 第2・4水曜日
9月12日	子育てきらりフェスタ vol.4 開催	300人	諏訪公園	
10月30日	子育て名人講座	10人	総合福祉センター	
10月31日	子育てきらりフェスタ vol.5 開催	223人	総合福祉センター	
11月14日	子育て名人講座	16人	総合福祉センター	
11月29日	湯村さん宅開設	30人	湯村さん宅	月1回開催
12月 1日	子育て名人さん懇談会	6人	総合福祉センター	
1月11日	高取団地ふれあいサロン開設	35人	高取団地公民館	月1回開催 第2火曜日
1月18日	サロンかわしり開設	30人	ほほえみガーデン	月1回開催 第3火曜日
2月18日	子育てきらりフェスタ vol.6 開催	200人	総合福祉センター	
3月18日	吉野子育てサロン開設	30人	吉野地区公民館	月1回開催 第3金曜日
3月24日	三川子育てサロン開設	20人	三川地区公民館	月1回開催 第2水曜日

子育て情報誌「れみい」の発行

「子育て中、いざという時にどうしていいかわからない」「転勤などで周りに親類・知人もいない」という人や将来子どもを産み育てていく女性に向けて、子育て情報誌「れみい」を発行した。年に2回のペースで、子育て特集記事をはじめ、公私の子育て支援事業、育児相談や働くお母さんのインタビューや小児科・産婦人科などの医療情報やお店など、大牟田での子育てが楽しいと思っただけの役立つ情報が満載の情報誌として、好評を博している。平成22年度は、6・10月発行。

おもちゃの図書館「くるりん」開設

おもちゃの図書館「くるりん」は、障がいのある子どもたちが、おもちゃを通して楽しく遊ぶことができるようにとの願いから始まったボランティア活動。障がいのある子どもたちは、遊びの機会に欠け、また上手に遊べない傾向があることから、たくさんのおもちゃを用意して、気にいったおもちゃを選んで遊んでもらい、家でも楽しく遊べるように貸し出しするのが「おもちゃの図書館」の活動。平成22年10月に「くるりん」開設。毎月第4土曜日に開催している。

(8)ファミリー・サポート・センター事業(市受託事業)

子育てのお手伝いをしたい人(協力会員)と子育ての手助けをしてほしい人(利用会員)との相互援助活動(コーディネート)を行うとともに、サポーター(協力会員)養成講座の実施や事業の周知啓発に努めた。

(養成講座の開催)

サポーター養成講座	平成22年6月29日(火)・7月6日(火)	2日間	12名登録
ステップアップ講座	平成23年1月21日(金)・2月2日(水)	2日間	

(ファミリー・サポート・センター会員数の推移)

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
利用会員	664	100.6	656	98.7	623	94.9
協力会員	109	105.8	112	102.7	120	107.1
相互会員	76	102.7	78	102.6	80	102.5
合計	849	101.4	846	99.6	823	97.2

(ファミリー・サポート・センター活動内容及び活動状況)

活動の主な内容	20年度 件数	21年度 件数	22年度 件数	前年比 (%)
保育所・幼稚園・学校・学童の登園登所前の預かり及び送り	66	146	332	227.3
保育所・幼稚園・学校・学童の迎え及び帰宅後の預かり	255	119	258	216.8
子供の病気時の援助	16	11	24	218.1
子供の習い事等の場合の援助	302	136	189	138.9
保育所・学校等休み時の援助	5	2	19	950
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中の援助	12	24	11	45.8
保護者の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	1	2	0	0
保護者等の外出の場合の援助	65	35	62	177.1
保護者の病気、その他急用の場合の援助	5	6	81	135
その他	3	22	2	9
合計	730	503	978	194.4

(9)放課後児童健全育成事業(学童保育所・市受託事業)

放課後児童対策として、昼間児童の養育ができない家庭などの児童(小学校1年生～概ね小学校3年生)に対して、適切な遊びと生活の場を提供することにより、児童の健全育成を図った。

(入所児童数：平成23年3月31日現在)

学童名	三池	高取	中友	白川	大牟田	平原	合計
児童数(人)	38	21	21	38	36	10	164

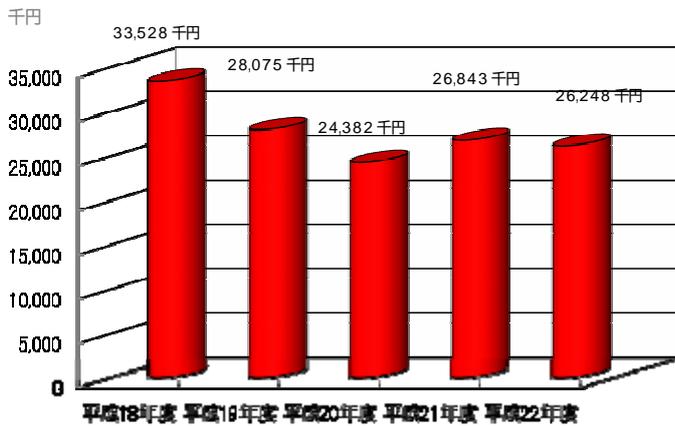
平成22年度より、新たに平原学童クラブを市より受託した。場所は学校や地域の方々と共有する小学校体育館のミーティングルームを使用。

(10)高齢者福祉対策の推進

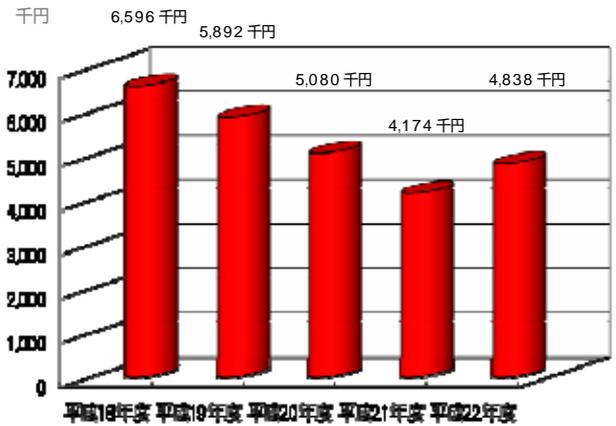
介護保険事業の充実

訪問介護(ホームヘルパー派遣) 訪問入浴(入浴車による訪問入浴) 居宅介護(ケアプランの作成)の3事業を実施し、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。

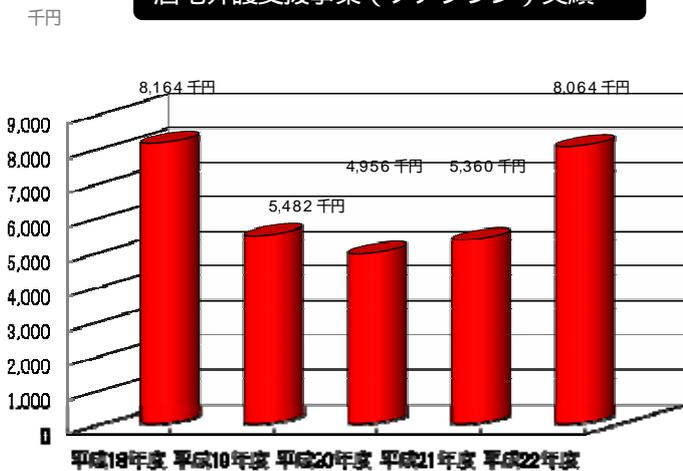
訪問介護事業（ホームヘルプ）実績



訪問入浴事業（入浴サービス）実績



居宅介護支援事業（ケアプラン）実績



【平成22年度介護保険事業の総括】

訪問介護事業では前年度実績より595千円減となり、事業件数についても、延226件減となった。また当初予算と比較すると4,827千円となり、当初目標には到達できなかった。

訪問入浴事業では前年度実績より663千円増、事業件数も53件増となったが、当初予算と比較すると2,538千円となり、当初予算には大幅に届かなかった。

居宅介護支援事業では前年度実績より2,704千円増、事業件数も66件増と伸びており、当初予算比較で+1,514千円、当初目標達成。

3事業合計として、前年度実績と比較する

（各年度事業実績）

事業名		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
訪問介護サービス	収入（円）	33,528,283	28,074,952	24,382,462	26,843,182	26,248,165
	件数（件）	9,449	8,004	6,832	7,637	7,411
訪問入浴サービス	収入（円）	6,596,250	5,891,634	5,080,000	4,173,859	4,837,532
	件数（件）	528	470	393	321	374
居宅介護支援事業	収入（円）	8,164,000	5,482,000	4,955,500	5,359,500	8,063,700
	件数（件）	836	567	575	586	652
総合計	収入（円）	48,288,533	39,448,586	34,417,962	36,376,541	39,149,397
	件数（件）	10,813	9,041	7,800	8,544	8,437

介護予防・相談センターの運営（市受託事業）

中央地域包括支援センターのサブセンターとして、上官・平原校区を担当し、介護認定により要支援と認定された高齢者及び配食サービス等の地域支援事業利用希望者等に対して、介護予防プラン等を作成するとともに定期的な訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関・サービス実施事業者等と連携して実施した。

(各年度事業実績)

事業名		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
介護予防・相談センター	収入(円)	1,995,332	3,056,800	3,129,000	3,511,080	3,442,720
	件数(件)	229	476	621	701	660

「在宅介護者の会」の活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする2つの「在宅介護者の会」の事務局を担い、様々な活動支援を行った。

大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」...会員数29人

【目的】在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、「介護」にかかる課題を解決していくことを目的に実施。

【定例会】毎月第4水曜日に実施。

おしゃべり会を中心に、学習会、カラオケ大会、料理教室などを実施。また、年2回、日帰り温泉旅行などリフレッシュ事業にも取り組んだ。

認知症在宅介護者の会「つどい語らう会」

【目的】介護家族が安心して介護を続けられ、介護が困難になっても本人と家族が、より良く暮らしていけるようにするための専門的、継続的なサポートを提供。

家族が主体となった家族会の発足。

【定例会】毎月第3木曜日に実施(地域交流施設を会場として活用)

美容と健康の為にケアピクスや学習会、もの忘れ相談医による個別相談、レスパイトケア、カフェなどを実施。

車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障害(児)者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るため、延79人に無料で車椅子を貸し出した。

(11)障がい児・者福祉対策の推進

障害者社会参加促進事業(市受託事業)

障害者の自立と社会参加の促進を図るため、手話、朗読、点訳、要約筆記の各奉仕員養成講座を総合福祉センターで実施するとともに、個人・団体等の要請に対して、要約筆記奉仕員を派遣した。また、視力障害者の情報収集のために「点字や声の広報」を実施した。

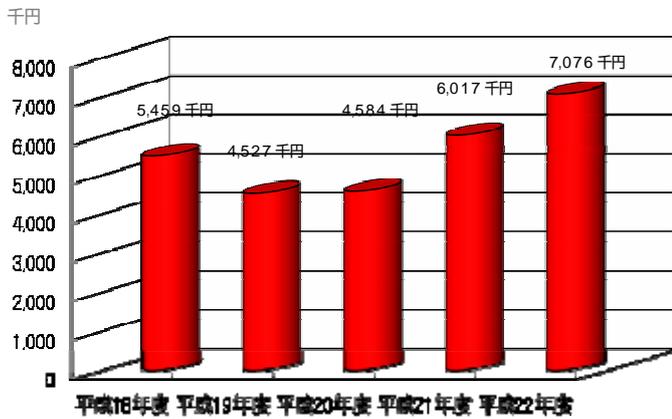
(各講座の実施状況)

講座名		概要
手話奉仕員養成講座	入門	【期間】平成22年8月19日~平成23年2月10日(毎週木曜日23回) 【受講者】28名 【修了者】10名
	基礎	【期間】平成22年5月13日~11月25日(毎週木曜日27回) 【受講者】26名 【修了者】16名
朗読奉仕員養成講座		【期間】平成22年5月27日~7月29日(毎週木曜日10回) 【受講者】15名 【修了者】9名 【入会者】9名
点訳奉仕員養成講座		【期間】平成22年5月15日~7月17日(毎週土曜日10回) 【受講者】19名 【修了者】11名 【入会者】10名
要約筆記奉仕員養成講座 (手書き・パソコンコース)		【期間】平成22年7月31日~11月13日(毎週土曜日15回) 【受講者】15名 【修了者】9名 【入会者】4名

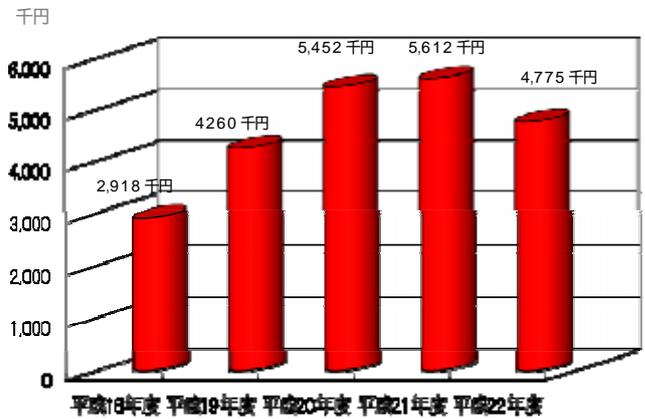
障害者自立支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス（ホームヘルパー派遣）訪問入浴（入浴車による訪問入浴）移動支援（ガイドヘルパー派遣）の3事業を実施し、在宅生活を支援した。

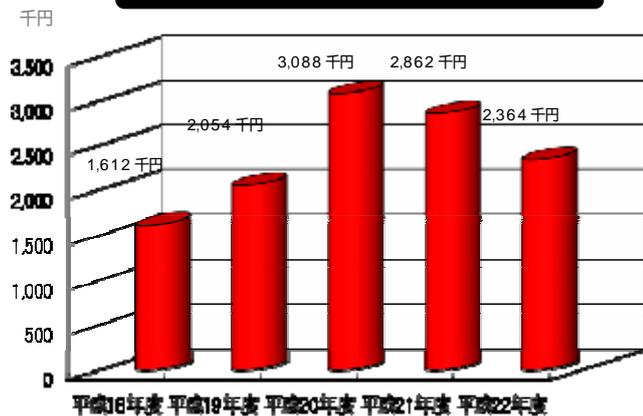
障害者居宅サービス事業（ホームヘルプ）実績



障害者移動支援事業（ガイドヘルプ）実績



障害者訪問入浴サービス事業実績



【平成22年度障害者自立支援サービス事業の総括】

居宅サービス事業では前年度実績より1,059千円増となり、事業件数については、14件の微減となった。また当初予算と比較すると+91千円の実績となり、当初目標を達成。
 移動支援事業では前年度実績より837千円減、事業件数も113件減となった。当初予算と比較しても1,240千円となり、当初目標は未達成。
 訪問入浴サービス事業では前年度実績より518千円減、事業件数も65件減となった。当初予算も472千円となり、当初目標は未達成。

3事業合計として、前年度実績と比較すると296千円収入減という結果となった。

(各年度事業実績)

事業名		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
障害者居宅サービス事業	収入(円)	5,458,890	4,527,191	4,584,032	6,017,141	7,076,318
	件数(件)	1,676	1,564	1,745	2,106	2,092
障害者移動支援事業	収入(円)	2,918,000	4,260,389	5,451,986	5,611,926	4,774,662
	件数(件)	770	1,290	1,338	1,374	1,261
障害者入浴サービス事業	収入(円)	1,612,350	2,054,375	3,087,500	2,861,875	2,343,650
	件数(件)	160	233	351	327	262
合計	収入(円)	9,989,240	10,841,955	13,123,518	14,490,942	14,194,630
	件数(件)	2,606	3,087	3,434	3,807	3,615

日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助相談）

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分なため、日常生活に困っている人たちに対して生活支援員を派遣し、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等を行った。

(実施状況)

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
人数	16	100.0	17	106.3	20	117.6
件数	166	99.4	145	87.3	227	156.6

(12) 総合相談事業の推進

福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合「第三者委員会」でその解決を図るため設置しているが、平成22年度は相談依頼がなく、開催していない。

行政書士による法務相談

毎月第3水曜日に行政書士による法務相談を実施し、家庭、離婚、金銭貸借、財産相続、事故などの相談に親身になって対応し、高度な対処法について無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。平成22年度実績は、53件。

生活福祉資金貸付事業(県受託事業)

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、修学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、民生委員の協力のもと、借受世帯の自立に向けた指導、支援を行った。

【相談受付件数】 154件 【貸付決定件数】 92件

(生活貸付福祉資金状況)

(単位：千円)

	20年度		21年度		22年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活支援費			14	7,209	27	11,630
住宅入居費			2	379	1	129
一時生活再建費			4	699	6	721
福祉費			1	61	8	8,423
緊急小口	9	850	16	1,400	28	2,660
教育支援費	10	12,247	9	10,309	11	18,320
就学支度費					10	2,499
その他					1	140
合計	19	13,097	46	20,057	92	44,522

住宅手当緊急特別措置事業(市受託事業)

住宅手当緊急特別措置事業は、離職者であって就労能力・就労意欲のある人の中で、住宅を喪失しているか、喪失するおそれのある人に対して住宅手当を支給することにより、これらの人に住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行うことを目的としている。

この事業を実施するに当たって、市保護課やハローワークと連携し、また必要に応じては本会が窓口である生活福祉資金貸付事業などを活用しながら、当事者の支援にあたった。

【相談件数】 116件
(うち面接相談99件、電話相談17件)
【申請件数】 15件
【支給決定件数】 12件(3件は審査中)
【就職決定者数】 8件

(13) 社協広報の充実

広報紙「きらり」の発行

年4回(4月・7月・10月・1月)、全世帯を対象に発行している社協福祉情報「きらり」を発行した。

社協事務局通信「きらり」の発行

毎月1回、社協事務局通信「きらり」を発行し、タイムリーな情報を提供した。

社協ホームページ(<http://www.omshakyo-kizuna.com/>)

社協の様々な活動・事業内容を紹介、また社協職員日記を毎日掲載した。

「点字・声の広報」の発行（市受託事業）

視力障がい者が地域生活する上で、必要な情報などを「点訳奉仕大牟田むつき会」や「大牟田朗読の会」の協力を得て、点字や音声によって定期的に情報を提供した。

(14) ボランティアセンター充実強化

ボランティア情報提供と啓発

ボランティア活動の活性化を図るために、ボランティアセンターの役割や活動の内容等を掲載したパンフレットの配布や全世帯配布の福祉だより“きらり”、新たに開設したホームページを通じて、ボランティア情報の提供に努めた。

コーディネート機能の強化

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結びとともに、ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めた。

また、個人登録者に今年度より年1回の登録継続アンケートを送付し、意思確認を行った。

(ボランティアセンターの登録状況)

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
グループ(団体)	46	88.5	54	117.4	52	96.2
個人(人)	209	107.2	230	110.0	61	26.5

(ボランティアの斡旋状況)

	主な斡旋内容	20年度 件数	前年比 (%)	21年度 件数	前年比 (%)	22年度 件数	前年比 (%)
個人	散髪、家屋内外の小修理、 外出支援、傾聴等	50	185.2	84	168.0	32	38.0
団体	散髪、デイサービスでの催 事、学童での催事、各種イ ベント、傾聴等	253	169.8	325	128.5	415	127.6
学校	障がい者との交流、手話・ 点字の学習、車いす・アイ マスク・高齢者疑似体験	37	97.4	39	105.4	32	82.0

傾聴ボランティア養成講座

地域におけるコミュニケーションの希薄化が進む中、「心の豊かさ・心のケア」が求められる昨今、相手の気持ちに寄り添い、心を込めて話を聴く「傾聴ボランティア」を養成することにより、その悩みや寂しさの解消への一端を担うことを目的に「傾聴ボランティア養成講座」を開催した。

第1回 平成22年10月19日
第2回 平成22年10月26日
第3回 平成22年11月2日
第4回 平成22年11月9日
第5回 平成22年11月16日

(受講者)30名 (修了者)12名

要約筆記ボランティア派遣（市受託事業）

聴覚障がい者の社会参加を促進するために、体育大会、福祉活動、文化活動、研修会等に要約筆記奉仕員を派遣した。

(派遣状況)

		20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
要約筆記	派遣件数	19	237.5	28	147.4	20	71.4
	奉仕員数	54	284.2	87	161.1	62	71.2

ボランティア活動保険加入

地域行事やボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

(加入状況)

		20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
加入者数		2,881	86.6	2,591	90.0	2,820	108.8

生活・介護支援サポーター養成講座～あこがれ流星群セミナー～(市受託事業)

一人暮らし高齢者や障がい者、育児中の人など、毎日の生活の中での不自由さや、「もし自分に何かあったら」という不安を感じている人は多数いると考えられることから、「誰もが安心して暮らせるように」ちょっとしたお手伝いができる市民生活支援サポーターを養成するために、「団塊の世代をはじめとした退職者等の地域デビュー」をテーマとして“あこがれ流星群セミナー”と銘打った生活・介護支援サポーター養成講座を開催した。

平成22年12月14日～平成23年2月22日、毎週火曜日全8回の講座を実施。毎回約50人が受講し、セミナー終了後、6人が“生活・介護支援サポーター”として登録した。

回数	講師名	講座テーマ	参加者数
第1回	九州大学大学院 教授 坂口 光一さん	いつまでも輝いていたい ～ロマンを生きる～	54人
第2回	(財)長寿社会開発センター 常務理事 石黒 秀喜さん	「老い支度講座」 ～認知症予防とミニ自分史作成のすすめ～	59人
第3回	NPO 法人自分らしい葬送を考える 会代表 小早川 滋さん	人生最期の選択 ～自分で決める“さよなら”のかたち	60人
第4回	NPO 法人自殺対策支援センター 副代表 根岸 親さん	自殺のない「生き心地の良い社会へ」	54人
第5回	九州看護福祉大学 看護学科長 教授 生野 繁子さん	介護力アップのためのかきこい介護保 険の使い方 ～介護保険苦情処理委員の経験から	46人
第6回	熊本学園大学 社会福祉学部 教授 和田 要さん	大牟田市の地域福祉 ～団塊の世代の底力～	35人
第7回	日本福祉大学 社会福祉学部 教授 平野 隆之さん	経験・技術を生かしたボランティア	45人
第8回	九州大学大学院 教授 坂口 光一さん	地域デビューをしよう!	38人

障害福祉総合ボランティア養成講座

障害福祉総合ボランティア養成講座では、障がいに対する理解をより一層深め、当事者と地域との架け橋となっていただけボランティアの養成を目的として、大牟田市障害者協議会、障害者相談支援センターと協働で開催した。

開催内容	実施日	参加者	修了者
知的障害の部	平成22年5月22日～6月26日	17名	9名
精神障害の部	平成22年7月3日～7月31日	15名	8名
身体障害の部	平成22年9月4日～10月2日	9名	3名
合計		41名	20名

成年後見活用講座

地域社会における権利擁護の推進を図るためにより多くの人々に成年後見制度を理解し、活用してもらえ
ることを目的として、大牟田市、大牟田市高齢者・障害者権利擁護連絡会、成年後見センター・リーガルサ
ポート福岡支部と協働で開催した。

【開催期日】平成23年1月19日～2月16日の毎週水曜日・全5回 【定員】30名

【研修内容】「人権・権利擁護」「法定後見制度の概要」「認知症及び精神・知的障がいについて」「契約」
「任意後見制度の概要」「家庭裁判所について」等

第2回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～

市民一人ひとりが自ら住んでいる地域に積極的に関わりをもち、地域住民による、地域住民のための「支
えあいの絆」を創りだすことを目的に、大牟田市及び大牟田市ボランティア連絡協議会等との主催・共催で
「第2回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～」を開催した。

第2回大牟田市地域福祉大会では、永年社会福祉活動に従事され地域福祉の向上に貢献された方々に対す
る表彰状・感謝状の贈呈を行うとともに、105歳の教育学者・昇地三郎先生をお招きし、「習慣健康法」の基
調講演や「大牟田市における地域づくり」をテーマとしたシンポジウム、癒しのコンサートなどを行った。

【開催日】平成23年2月5日(土)9時30分～13時00分

【会場】大牟田文化会館 小ホール

【参加者】約550名

【主催】大牟田市・社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

【共催】大牟田市ボランティア連絡協議会・大牟田市校区社会福祉協議会会長連絡協議会

第1部...大牟田市社会福祉協議会・表彰式典

区分	表彰対象	推薦基準	人数
表彰	市社協役員・評議員	在任期間4期以上のもの	5名
	校区社協における実践活動者	10年以上校区における地域福祉推進活 動が特に顕著と認めるもの	20名
	優良校区社協(上内校区社会福祉協議会)	地域福祉活動が他の校区の模範となる もの	1校区
	ボランティアセンター登録者・団体	登録10年以上のもので、ボランティア 活動が特に顕著と認めるもの	4団体
	その他特に認めるもの	会長推薦	2団体 3名
感謝	校区社協における実践活動者	5年以上校区における地域福祉推進活動 が顕著と認めるもの	49名
	ボランティアセンター登録者・団体	登録5年以上のもので、ボランティア活 動が顕著と認めるもの	2団体
	善意銀行高額寄付者	10万円以上の金品寄贈者	3団体 8名
合計			1校区 11団体 85名

第2部...癒しのコンサート

「地域からのメッセージ」 演奏：ザ・ヒーリング

第3部...基調講演

世界一元気な105歳児(現役教育学者)が実践する ～十代『習慣健康法』～
講師：しいのみ学園 理事長 昇地 三郎 さん

第4部...大牟田市における地域づくりシンポジウム

コーディネーター：きのこ老人保健施設 副施設長 武田 和典 さん

アドバイザー：山口芸術短期大学 保育学科 講師 佐藤 真澄 さん

パネリスト：手鎌校区社会福祉協議会 会長 猿渡 英昭 さん

NPO しらかわの会 事務局 猿渡 進平 さん

販売・展示コーナー...ホワイエで障害者団体及びいきいきサロンによる手作りバザー
各校区社協活動等を掲載したコーナー

(15)福祉教育の推進

小・中学校を対象として、福祉教育を推進し社会福祉への理解と関心を高めるとともに、ボランティア活動と地域福祉活動への参加促進を図った。

福祉教育推進校の指定及び育成

児童・生徒の福祉教育の推進を目的として、高等学校4校、中学校11校、小学校22校を福祉教育推進校に指定し、視覚・聴覚障がい者等をゲストティーチャー（講師）として派遣した。

（派遣状況）

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
派遣件数	37	97.4	39	105.4	32	82.0

福祉教育推進校連絡会の開催

福祉教育推進校が相互の連携を図るとともに研修や情報交換を行うため、連絡会を開催した。

(16)評議員・理事の定数等の見直し

評議員・理事選出検討委員会にて、評議員・理事の定数の見直しが協議され、次のとおり答申された。この答申を受け、理事会・評議員会で承認された。加えて、社会情勢の変革や福祉制度の多様化など、今後の社協運営に専門性と経営戦略が求められることから、理事業務担当制を設置した。

評議員・理事の定数の見直し

（改正前）

区 分	評議員会	理 事
1 校区社会福祉協議会代表	18	5
2 民生委員・児童委員代表	3	2
3 町内公民館連絡協議会代表	1	1
4 女性代表	0	1
5 社会福祉事業施設代表	2	1
6 福祉団体代表	3	1
7 ボランティア団体代表	2	1
8 社会福祉関係公務員代表	2	1
9 市議会代表	2	2
10 学識経験者	6	2
合 計	39	17

（改正）

区 分	評議員会	理 事
1 校区社会福祉協議会代表	6	1
2 民生委員・児童委員代表	2	1
3 町内公民館連絡協議会代表	1	1
4 社会福祉事業施設代表	2	1
5 福祉団体代表	3	1
6 ボランティア団体代表	1	1
7 NPO法人代表	1	0
8 社会福祉関係公務員代表	1	1
9 市議会代表	1	1
10 学識経験者	5	3
合 計	23	11

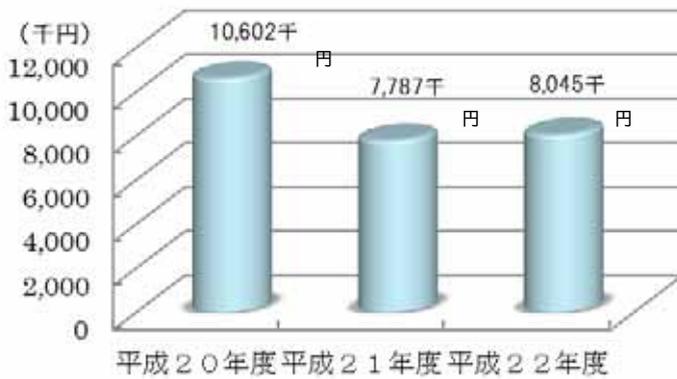
理事業務担当制部会の設置

業務担当制部会は、総務部会・経営企画部会・福祉サービス部会の3部会を設置した。

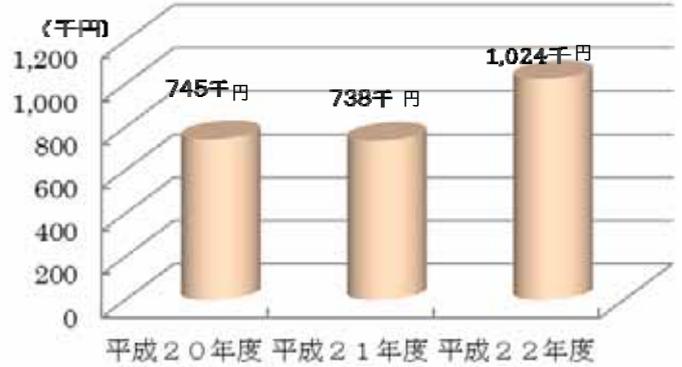
総務部会	経営企画部会	福祉サービス部会
3部会の調整	新たな事業経営の開拓	福祉ニーズ調査等に関すること
予算・決算の関すること	介護保険事業経営に関すること	福祉サービススキルアップ
人事・職員処遇に関すること	市立病院ショップに関すること	障害者自立支援事業に関すること
諸規程に関すること	福祉基金の活用について	ボランティアセンター運営
地域福祉実践計画の進捗	その他財源確保に関すること	インフォーマルサービスの開拓

(17) 大牟田善意銀行の啓発強化

一般寄付金の3カ年の推移



賛助会員会費の3カ年の推移



(預託状況)

(単位：円)

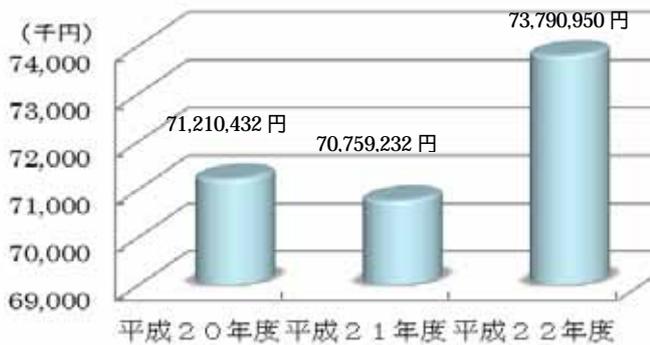
		20年度	前年比 (%)	21年度	前年比 (%)	22年度	前年比 (%)
一般寄付金	件数	501	94.0	430	85.8	459	106.7
	金額	10,601,820	107.1	7,787,033	73.4	8,044,998	103.3
物品寄贈件数		13	61.9	21	161.5	16	76.2

(会員数等の推移)

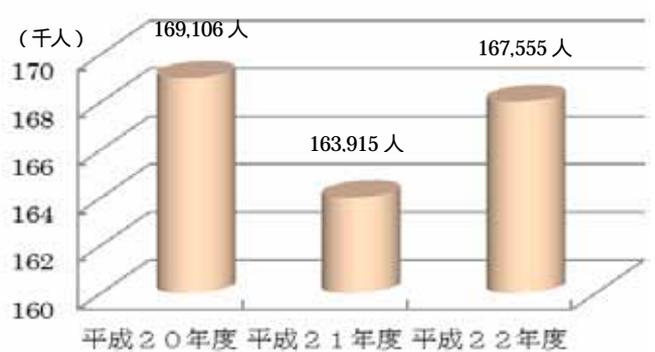
		20年度	前年比 (%)	21年度	前年比 (%)	22年度	前年比 (%)
会員数(個人・団体)		423	102.7	413	97.6	473	114.5
金額(円)		745,000	114.3	738,000	99.1	1,024,000	138.7

(18) 市立病院ショップの運営

ショップ売上金の3カ年の推移



ショップ客数の3カ年の推移



(19) 総合福祉センターの運営

総合福祉センター利用状況

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
会議室等利用件数	1,216	94.0	812	66.8	1,030	126.8
会場使用料収入	4,231,745	89.5	3,543,580	83.7	4,452,543	125.8
ヘルストロン利用者数	12,758	86.6	11,513	90.2	13,816	119.9
ヘルストロン利用収入	1,275,800	86.6	1,151,300	90.2	1,381,600	119.9
計(+)	5,507,545	88.8	4,694,880	85.2	5,834,143	124.3
会議室等年間利用者数	50,180	108.3	30,660	61.1	41,508	135.4

絆けんこう教室

総合福祉センター利用者や近隣の地域住民を対象に、毎週月曜日の午前と午後の2回に分けて多目的ルームで「絆けんこう教室」を開催した。

毎回、参加者の血圧測定後に多彩な講師(ボランティア)を招いて、「絆けんこう教室」を実施し、平成22年度で年間に延561人が参加した。

総合消防訓練

平成23年2月24日に、「もしもの災害に備えて...」総合福祉センターの平日、利用者がいる時間帯に、ボランティア連絡協議会と合同で総合消防訓練を実施した。

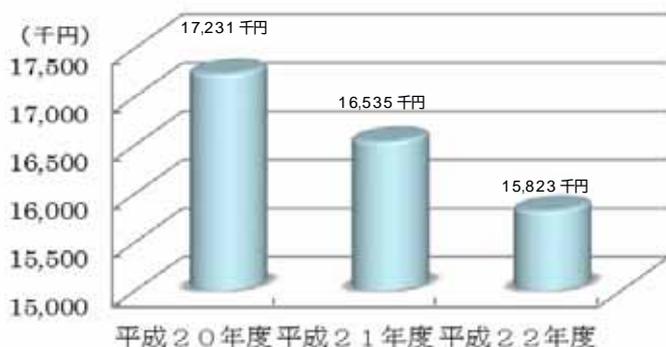
訓練当日は、火災通報訓練、初期消火訓練、火災避難訓練等の後に消防隊員より消火器の取扱い方法や災害時の被災者搬送方法等の講話があった。また、今回は、聴覚障がい者に火災の発生と非難誘導を知らせるプレートを用いたり、視力障がい者にはガイドヘルパーが付き添うなど非常時さながらの総合消防訓練となった。総合福祉センター利用者、視覚・聴覚障害者、ボランティアなど総勢約100人が参加した。

(20) 共同募金運動の取組み

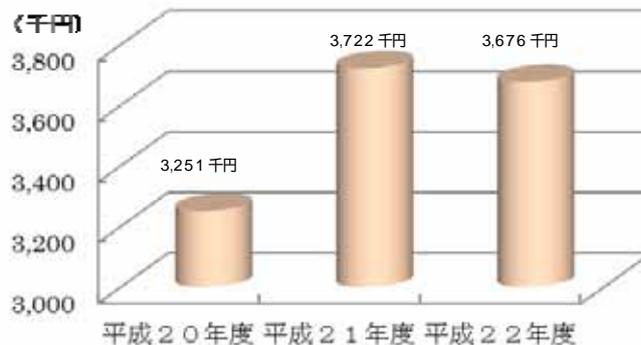
赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動について、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。

赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金実績

共同募金実績3カ年の推移



歳末たすけあい募金実績3カ年の推移



(単位:円)

	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
赤い羽根共同募金	17,230,722	98.7	16,534,835	95.9	15,823,021	95.7
歳末たすけあい募金	3,251,364	102.6	3,722,102	114.4	3,675,789	98.8

共同募金配分委員会の設置

赤い羽根共同募金運動においては、ここ10年の間に大牟田市の人口動態の急激な変化や公民館加入率の減少みられるように地域組織の弱体化などの事由により、募金額が減少一途にある。

年々このように募金減少傾向にあることから、B枠配分金の交付団体及び交付額の見直しを行うための配分委員会を設置した。今年度については、配分委員会でB枠配分の使途について配分ガイドラインを策定した。交付団体（福祉教育推進校以外）及び一般公募団体についての配分ガイドラインの適用は、平成24年度事業からの開始することとした。

～配分ガイドラインのポイント～

配分金を受けることのできる団体の要件

配分のための所定の様式を作成

配分の基準...地域配分額は、B枠配分額の概ね65%とする

福祉団体・NPO法人・福祉教育推進校等に対する配分額は、B枠配分額の概ね35%とする

最終配分決定については、理事会・評議員会の承認を必要とする

共同募金配分事業として、ふさわしくない費用を支出した場合、全額及び一部返還するものとする

第1回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバルの開催

赤い羽根共同募金の普及、啓発を目的に、22校区の地域住民を対象に、「赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会」を開催した。

また、地域社会における人々の「支えあいの絆」を深めることにより、子ども・高齢者・障がい者にやさしい大牟田のまちを創造していくとともに、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち」の実現に寄与するために「社協“絆”フェスティバル」を開催した。

【日 時】平成22年9月12日（日）【会 場】諏訪公園 多目的広場 【参加者】約3,000人

【内 容】 赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会

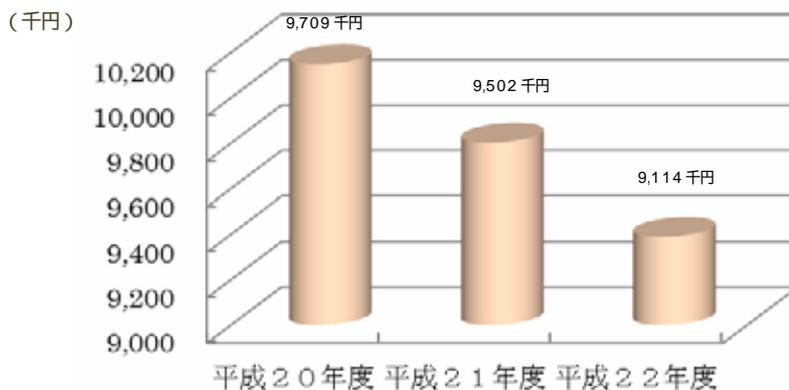
社協“絆”フェスティバル（屋外ステージ・屋外出店・プレパーク・フリーマーケット）

【主 催】 福岡県共同募金大牟田市支会・大牟田市社会福祉協議会・大牟田市校区社会福祉協議会会長連絡協議会・大牟田市ボランティア連絡協議会

【協力団体】 大牟田市グラウンドゴルフ協会・大牟田レクリエーション協会 ほか

(21) 日本赤十字大牟田市地区業務の取組み

日赤募金（社資）実績の推移



	20年度	前年比(%)	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)
日赤募金（一般社資）	9,708,894	98.8	9,502,425	97.8	9,113,593	95.9
日赤募金（法人社資）	440,000	100.0	300,000	68.2	275,000	91.7
計	10,148,894	98.8	9,802,425	96.6	9,388,593	95.8

平成22年度地域別・職域別・学域別の献血実績について

区 分	受 付 者(人)	献 血 者(人)	不 適(人)
地 域 別(31カ所)	2,786	2,271	515
職 域 別(31カ所)	1,930	1,609	321
学 域 別(6カ所)	387	327	60
合 計	5,103	4,207	896

(22)夢実現ドリームプロジェクト ~あなたの夢をあきらめないで~

社協職員、ボランティアによる新たな試みとして「夢実現ドリームプロジェクト」を実施した。これは、病気や介護等の理由より、「これまでできなかったことができない」「もう一度やってみたい」という願いを、ほんのちょっとしたお手伝い、支援をすることにより、実現していくといったプロジェクトであり、平成22年度は、2つのドリームを叶えた。

~花嫁衣裳を着てみたい~

~もう一度カラオケで唄いたい~

(23)福祉車両寄贈について

平成22年12月、福岡生命保険協会より地域福祉の向上を目的とした福祉巡回車を、平成23年1月には、有明環境整備公社より「環境保全、市民活動のために活用してほしい」と軽トラックを寄贈していただいた。今後、地域福祉活動や福祉サービスなど幅広い分野で活用していきたい。

(24)職員研修の取組み

全職員研修

日 程	講 師	研 修 内 容
平成22年 6月 4日	白川病院 柿山 泰彦氏	やねだん故郷創生塾第7期生報告
平成22年 7月 1日	社会福祉協議会 内野 周一氏 永江明美・藤川美名子氏	社会福祉協議会とは? おおむたキャロットサービスとは?
平成22年 8月12日	社会福祉協議会 奥蘭 和人氏	介護保険事業及び障害者自立支援サービスの経営
平成22年10月 7日	おもちゃ図書館全国連絡会 九州地区アドバイザー篠原敬子氏	おもちゃ図書館とは?
平成22年11月 5日	熊本学園大学 教授 和田 要氏	障がい者福祉施策をめぐる 社会福祉協議会の役割について
平成22年12月 6日	大牟田市認知症ケア研究会 代表 大谷るみ子氏	認知症ケア「支援者の目と耳と言葉と心」
平成23年12月27日	長寿社会推進課 境 康晴氏 白川病院 竹下 一樹氏 社会福祉協議会 内田 勉氏	やねだん故郷創生塾第8期生報告
平成23年 2月24日	熊本学園大学 教授 和田 要氏	ボランティアの活性化について 「社協スタッフ一人ひとりの望むもの...」
平成23年 3月22日	アイ・コンタクト実行委員会	ドキュメンタリー映画 「アイ・コンタクト」上映
平成23年 3月28日	日本福祉大学 教授 平野隆之氏	地域コミュニティづくりにおける 校区社協のあり方について

ホームヘルパー研修

日 程	講 師	研 修 内 容	参加者
平成22年 4月21日	長寿社会推進課 馬場 朋文氏	障害者自立支援法について	31名
平成22年 5月20日	地域福祉推進室 甲斐田みゆき氏	個人情報の保護について 漏洩事件DVD鑑賞等	24名
平成22年 6月30日	長寿社会推進課 橋本 強氏	介護予防事業について 筋力向上トレーニング・口腔機能向上教室等	22名

平成 22 年 7 月 21 日	食品衛生監視員 本吉 恵子 氏	食品衛生基礎知識について 口腔ケアについて	20 名
平成 22 年 8 月 24 日	産業振興課 平田 恵子 氏	接遇研修（笑顔の作り方・お辞儀の仕方・電話 対応の仕方シュミレーション・案内の仕方等）	23 名
平成 22 年 9 月 22 日	地域包括支援センター 岡山 隆二 氏	認知症ケアに見られる周辺症状（問題行動）の 対応 食事介助について	19 名
平成 22 年 10 月 20 日	大牟田市消防署 救急隊員	心肺蘇生法の手順（実技・講話）について A E D の使用方法	31 名
平成 22 年 11 月 24 日	健康対策課 健康推進担当	高齢者の食育について 食事バランスガイドについて	14 名
平成 22 年 12 月 15 日	社会福祉協議会 内田 勉 氏	社会福祉協議会の概要について 小地域ネットワーク活動について	15 名
平成 23 年 1 月 26 日	教育委員会同和教育課 境 明恵 氏	人権学習について 障害者に関する人権問題について	14 名
平成 23 年 2 月 23 日	社会福祉協議会 中村 由美 氏 藤好アヤ子 氏	高齢者の食事の実際について ヘルパーとして身に付けたいマナーについて	14 名
平成 23 年 3 月 16 日	社会福祉協議会 永井小夜子 氏	記録の必要性について「伝わる記録を書こう」 訪問介護の記録について	16 名

ガイドヘルパーとの合同研修

ガイドヘルパー研修

日 程	講 師	研 修 内 容	参加者
平成 22 年 6 月 23 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	事故・ヒヤリハット（ワークショップ形式）	7 名
平成 22 年 7 月 20 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	介護技術（演習）	5 名
平成 22 年 9 月 15 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	ガイド中の状況について意見交換	6 名
平成 22 年 11 月 24 日	社会福祉協議会 総務担当	社会福祉協議会の概要について	5 名
平成 22 年 12 月 14 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	ガイド中の状況について意見交換	4 名
平成 23 年 1 月 19 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	職業倫理・ガイドヘルプの基礎知識	5 名
平成 23 年 2 月 16 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	技術研修	7 名
平成 23 年 3 月 16 日	社会福祉協議会 福祉サービス担当	実技研修	6 名

(25) その他の市受託事業

生活機能評価受診勧奨事業

平成 21 年 10 月から継続の緊急雇用創出事業で、4 月には新たに 5 名の職員を採用し、計 11 名の訪問指導員等によって、生活機能評価の受診勧奨や未受診者の状況調査を行い、必要に応じてチェックリストを実施した。また、未受診者をはじめ地域包括支援センターや介護予防・相談センターへ相談に行った高齢者に対し、見守り訪問・相談・支援を行った。

介護予防訪問啓発・実態把握事業

平成 22 年 10 月から市より受託した事業で、新たに 6 名の職員を採用し、介護予防の必要性について個別の啓発活動及び生活状況や身体状況などの実態把握に努めた。加えて生活機能評価（特定健診受診等含む）の受診勧奨を行い、介護予防の重要性と特定高齢者となった場合の各種事業を説明しながら、継続的な訪問・見守り・相談・支援を行った。

介護予防実態調査分析支援事業

日常生活圏域ごとの高齢者の状態や支援ニーズ、高齢者の自立生活を阻む課題をよりの確に把握することを目的に介護予防実態調査分析支援事業を実施した。

具体的には、駿馬南、白川、高取、手鎌の4校区住民より抽出した65歳以上の高齢者に対して、調査票を郵送・回収、回答がなされない高齢者には訪問し、回収業務を行った。調査件数400件に対して、回収件数370件で、92.5%の回収率となった。この調査結果は、今後、介護予防のモデル事業を実施し、実施方法等の見直しを図ることで、より効果的な介護予防事業の実施に資すること及び第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の資料として活用される。

大牟田市地域包括ケア推進事業

大牟田市地域包括ケア推進事業は、平成22年10月から市より受託事業で、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯の更なる増加に対する地域包括ケアネットワークを確立するために、高齢者の支援ニーズに応じ、様々な生活支援サービスを包括的に提供できるような地域づくりを目的としている。

この地域包括ケア推進業務を遂行するため、中央地域包括支援センターへ本会所属の社会福祉士を派遣。具体的な事業内容は、次のとおり。

介護保険事業はもとより、訪問・見守り活動などの制度外サービスや高齢者住宅に関する情報など、地域包括ケアに必要な情報を収集し、ケアマネジャーや地域関係者へ情報を発信。

地域交流施設活用促進のため、地域住民と事業所を繋いだ。

一般高齢者に対して、外出援助、生活支援などの介護保険制度外のサービス（キャロットサービス、ふれあいサロン活動等）の周知啓発を行うなど個別のニーズに応えた。

知的障がい児・者医療ニーズ等実態調査の実施

知的障がい児・者のいる家庭では介護者が、親と子どもなどの二重介護の状況も見受けられることや地域の医療機関で受診できない障がい児・者が多くみられることから、介護者の負担や医療支援ニーズの実態を把握するために、アンケート調査プロジェクトを立上げ、障害当事者団体や障害者支援団体・障害者自立支援協議会等と協働で知的障がい児・者医療ニーズ等実態調査に取り組んだ。加えて、アンケート調査プロジェクトで実態調査を終えたあとも、実態調査報告会やこれからの知的障がい児・者医療に関する支援体制を実行あるものにするため、プロジェクトの継続を確認した。

がん検診・特定健康診査啓発事業

大牟田市では、健康増進法等に基づき基本健康診査・各種がん検診（胃がん・肺がん・大腸がん・子宮がん・乳がん・前立腺がん）を行っており、こうした健康診査事業は、疾病の早期発見・早期治療へ結びつける二次予防として大きな役割を担っている。このような健康診査事業の受診者を増やすことは、市民の健康づくりを進めていく上で重要であり、そのための受診勧奨の啓発活動は大きな役割を担っている。本会では、平成23年2月より、このがん検診・特定健康診査啓発事業を、緊急雇用創出事業で受入れ、平成23年度で本格的な活動を行うため、訪問先のリストや各種イベントで配布する啓発用チラシの作成などの準備作業を行った。

(26)空家再生プロジェクト

大牟田市内に多数存在する空家を高齢者や障がい者、子育て中の親などを対象としたサロンなどの憩いの場として創出し、「地域活動の拠点」としての機能を持たせることで、地域住民同士の“絆”を深めることを目的に平成22年10月より実施した。平成22年度は、平原校区の「稲又さん家」、三池校区の「湯村さん宅」の2件の空家を活用し、障がいがある子を持つ親御さんの小物作りや情報交換の場やサロン活動の場として活用された。また、この取組みはNHKや民放などで報道された。

(27)東日本大震災復興支援についての取組み

平成23年3月11日、東日本にて前代未聞の巨大地震が発生。この直後からテレビや新聞等で流れたあまりにも悲惨な状況に言葉を失った。被災地の方々の生活や地域の再生には、長期的視野に立った支援が明らかに必要であり、「復興支援のために行動しなければならない…」とまず12日には総合福祉センター内に義援金箱の設置、14日の早朝を皮切りに連日街頭募金を実施した。また、様々な情報が飛び交う中、確かな情報入手し、必要な人材・物資などを供給していくための体制づくりとして、市内の3団体（大牟田市介護サービス事業者協議会・大牟田市障害者協議会・大牟田市社会福祉協議会）で、「東日本大震災復興支援プロジェクト

おおむた」を立ち上げた。今後、様々な関係団体と連携しながら、被災地域で支援困難な高齢者・障がい者・乳幼児等の支援を含め、幅広い視点から支援方法の協議や具体的な復興支援を行っていく。

(28)福祉バス及びリフト付きバスの運行

福祉団体等の福祉の増進のため、各種大会や研修会等の参加に際して福祉バスを運行した。
また、交通手段が困難な人を対象に、車椅子のまま乗降できるリフトバスを貸し出した。

	20年度		21年度		22年度	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
福祉バス利用状況	82	2259	83	1,889	83	1,896
リフトバス利用状況	29	132	22	111	35	152

(29)他都市よりの視察状況

月 日	視察受入	研修内容
平成22年4月23日	菊陽町社会福祉協議会	校区社協活動、認知症についての取組みについて
平成22年7月5日	中間市社会福祉協議会	認知症に対する地域ネットワーク
平成22年9月14日	直方市社会福祉協議会	介護保険事業、収支改善に向けた取組み
平成22年10月30日	大木町社会福祉協議会	高齢者対策の地域の取組み
平成22年11月5日	合志市須屋コミュニティ連絡協議会	校区社協活動、サロン活動について
平成22年11月12日	水俣市社会福祉協議会	大牟田市社協事業の取組みについて
平成22年11月15日	武雄市社会福祉協議会・北方地区協議会	校区社協の組織・運営及び活動について
平成22年11月30日	佐賀市社会福祉協議会	徘徊SOSネットワーク事業
平成23年2月10日	白浜市社会福祉協議会	大牟田市社協の概要、主な事業の取組み
平成23年3月9日	こうざき校区社会福祉協議会	小地域ネットワーク事業等について